

令和4年度全国中学生・高校生防災会議 「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」報告書

目的

地震や火山噴火、水害など様々な災害が頻発している日本において、これからの防災や減災の担い手である全国各地の中学生・高校生を対象に、今後の防災や減災について考える機会を設け、人材の育成、防災意識と社会参画意識のさらなる向上を目指し開催しました。

主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構

主管

兵庫県立舞子高等学校 国立淡路青少年交流の家

特別協力

公益財団法人上廣倫理財団

後援

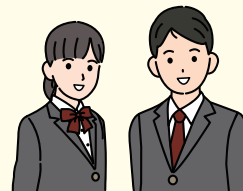
文部科学省、兵庫県、兵庫県教育委員会、徳島県、徳島県教育委員会

日程

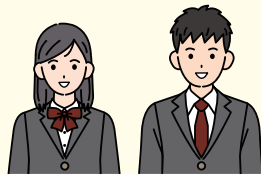
令和5年1月13日(金)～1月15日(日) 2泊3日
※遠方からの参加者は、1月12日(木)から

場所

兵庫県立舞子高等学校
国立淡路青少年交流の家



参加校



近畿

暁中学校・高等学校
京都市立塔南高等学校
兵庫県立尼崎高等学校
兵庫県立尼崎小田高等学校
兵庫県立三田西陵高等学校
兵庫県立松陽高等学校定時制課程

兵庫県立須磨友が丘高等学校
兵庫県立宝塚東高等学校
兵庫県立西宮高等学校
兵庫県立舞子高等学校
兵庫県立三木北高等学校
南あわじ市立南淡中学校

九州

長崎県立諫早高等学校
熊本県立第二高等学校
大分県立佐伯鶴城高等学校

東北

岩手県立釜石高等学校
宮城県気仙沼向洋高等学校
宮城県涌谷高等学校

中部

新潟県立糸魚川白嶺高等学校

関東

桜美林高等学校

四国

徳島県立川島中学校
徳島県立鳴門高等学校
高知県立大方高等学校

参加人数

79名(中学生9名、高校生48名、教員22名)



National Institution For Youth Education

国立青少年教育振興機構

1月12日（木）【交流会】（会場：国立淡路青少年交流の家）



参加者の緊張をほぐすことを目的とし、淡路島や参加者の出身都道府県に関するクイズを行いました。「防災ジュニアリーダーとはどんな人？」と問いかけ、それぞれが考えた防災ジュニアリーダー像について意見を共有することで、これから始まる合宿への意識の切り替えを行いました。

タイムテーブル

1月13日（金）【震災メモリアル行事】（会場：兵庫県立舞子高等学校）

9:00 震災メモリアル行事 開会

舞子高校で開催された、「1.17 震災メモリアル行事『阪神・淡路大震災を忘れない～21世紀を担う私たちの使命～』兼ひょうごユース防災・減災ワークショップ」に参加しました。

9:15 追悼演奏

演奏

シンガーソングライター
asari 氏

自身が東日本大震災で被災した過程で感じたこと、考えたことを「歌」という形で参加者に届けました。

9:55 全体会（講演）

講演

東北学院大学大学学生
雁部 那由多 氏

「忘れない 未災者のわたしたち
～語り継ぐこと、記憶すること～」



11:00 分科会

13:15 ワークショップ

講師

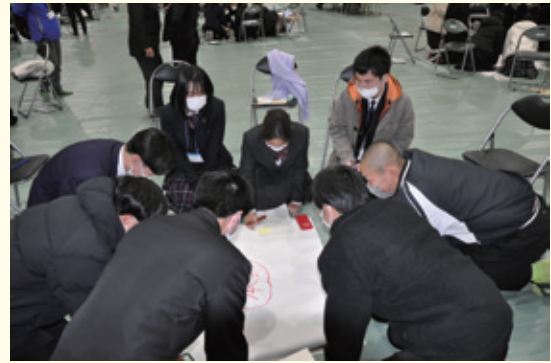
宮城県石巻西高等学校元校長
齋藤 幸男 氏

講師のファシリテートのもと、参加者は、東日本大震災での避難所の実態を聞いた後、避難所運営の組織図を作成する活動を行いました。



20:00 ワークショップ

①「震災メモリアル行事のふりかえり」



●全体会（講演）

東日本大震災の語り部である雁部那由多（がんばなゆた）氏による「忘れない 未災者のわたしたち～語り継ぐこと、記憶すること～」と題した講演が行われました。はじめに、小学校5年生のときに被災した経験と、自身が中学生で語り部になったきっかけを語っていただき、その中で、「被災地はやがて『未災地』となり、地域が被災の経験を失っていく。震災の経験は自身の心の中にあるだけだと辛い記憶だが、誰かに伝えることで価値のある情報になる。」と述べ、語り継ぎの意味を示していました。また、「語り」の先には行動を起こすことが大切であると述べ、参加者に行動を起こして欲しいと訴えていました。



●【震災メモリアル行事の振り返り】（会場：国立淡路青少年交流の家）

参加者は4～5人のグループになり、ブレインストーミングによって震災メモリアル行事で感じたことを共有し、KJ法によって意見をまとめた。その後、ワールドカフェ形式で他のグループとも意見を共有し、振り返りを深めました。完成した模造紙は壁に掲示し、全員が感じたことを共有できるようにしました。



1月14日(土) (会場：国立淡路青少年交流の家)

8:50 活動発表「壁新聞作成」 

10:40 パネルディスカッション

コーディネーター

防災教育学会会長
諏訪 清二 氏

13:00 講義「災害と向き合う」

講師

防災教育学会会長
諏訪 清二 氏

「災害と向き合う」と題して、災害時の被害を小さくするためには、地震や津波、台風等の「ハザードそのもの学習」と「備え」が大切であることをご講義いただきました。

14:20 ワークショップ②
「アクションプラン作成」

18:30 ワークショップ③
「アクションプラン発表」



●壁新聞作成

学校のエリアに近い3~4人グループで、各々が持ち寄った資料を用いながら作成しました。学校毎の取り組みの羅列にならないようにするために、「誰に」「何を」伝える壁新聞なのか、テーマを明確にして作成を進めていきました。

●パネルディスカッション

コーディネーター：諏訪 清二氏 (防災教育学会 会長)

登壇者：鈴木 朔弥 (宮城県気仙沼向洋高等学校)
(生徒) 川越 彩生 (兵庫県立舞子高等学校)
上園 凌 (兵庫県立松陽高等学校定時制課程)
谷田 輝星 (高知県立大方高等学校)
田中 琥太郎 (熊本県立第二高等学校)

参加者の中から、5名が登壇してパネルディスカッションを行いました。登壇者は、「イチオシの取り組み」、「自分が一番大切にしていること」、「取り組みの中で学んだこと」、「今後どのように取り組んでいきたいか」といったテーマでそれぞれの意見を述べました。また、登壇者だけでなく聴衆からも質問、意見交換が行われました。



●アクションプラン作成

同じ学校ではない、地域性も異なる5~6人グループで、アクションプラン(行動の計画)の作成を行いました。アクションプランは、個人で作成するのではなく、グループ全員が「やりたい」と考える、共通のものを作成することにしました。各グループの自由な発想でアクションプランの内容を決めていきました。

●アクションプラン発表

5分程度の発表の後、他のグループから5分程度コメントをもらいました。コメントは、赤い付箋に「良いと思う点」を、青い付箋に「こうやったらもっと良くなると思う点」を書き、模造紙に貼り付けながら行いました。最後は、全グループが作成したアクションプランを掲示し、全体で共有、相互コメントができるようにしました。





タイムテーブル

1月15日(日) (会場：人と防災未来センター)

9:45 体験・見学 「人と防災未来センター」

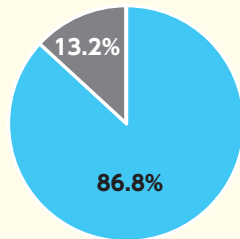
阪神・淡路大震災の被害や復興の歴史、震災の経験を伝える取り組みを学ぶために、人と防災未来センターを見学しました。震災の様子を追体験できるシアター上映や展示物を見学することで、より具体的に阪神・淡路大震災をイメージすることができました。



事後アンケート【生徒】

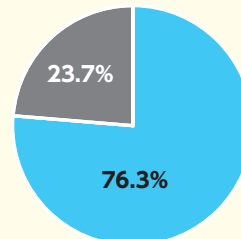
(回答数=38)

防災意識は向上したと思いますか



■ 向上した ■ やや向上した
■ あまり向上していない ■ 向上していない

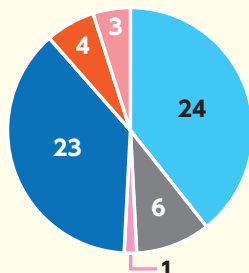
自分から行動しようとする力は向上したと思いますか



■ 向上した ■ やや向上した
■ あまり向上していない ■ 向上していない

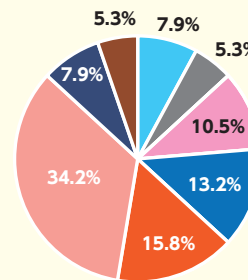
本事業に参加しようと思ったきっかけは何ですか (複数回答可)

※数値は回答数を示す



■ 先生からの薦め ■ 友人からの薦め ■ 保護者からの薦め
■ 防災に興味があったから ■ 校外行事に参加したかったから
■ その他

本事業の活動で最も良かったと思うものを教えてください

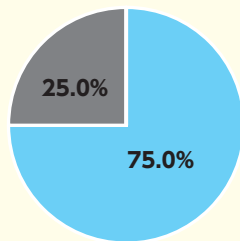


■ 震災メモリアル行事 ■ 震災メモリアル行事のふりかえり ■ 壁新聞作成
■ パネルディスカッション ■ 講演「災害と向き合う」 ■ アクションプラン作成
■ アクションプラン発表 ■ 人と防災未来センター見学

事後アンケート【教員】

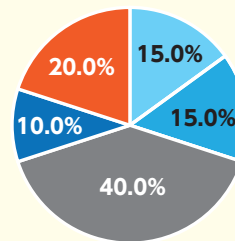
(回答数=20)

生徒の防災意識は向上したと思いますか



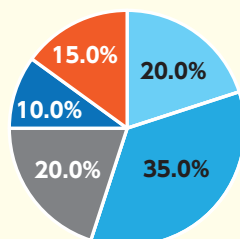
■ 向上した ■ やや向上した
■ あまり向上していない ■ 向上していない

本事業の担当となった理由として最も当てはまるものを選んでください



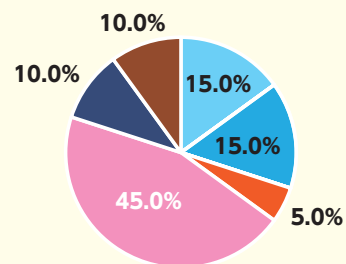
■ 総合的な探究の時間の担当 ■ 防災クラブ等の担当
■ 防災担当 ■ 生徒会担当 ■ その他

参加した生徒に最もよく当てはまるものを一つ選んでください



■ 生徒会活動 ■ 防災に関するクラブ、委員会
■ 自主的に活動 ■ 総合的な探究の時間 ■ その他

本事業の活動で最も良かったと思うものを教えてください



■ 震災メモリアル行事 ■ 震災メモリアル行事のふりかえり ■ 壁新聞作成
■ パネルディスカッション ■ 講演「災害と向き合う」 ■ アクションプラン作成
■ アクションプラン発表 ■ 人と防災未来センター見学

事業の感想（一部抜粋）

生徒からの感想



他校の人たちと交流することで各校の取り組みを知ることが出来て自分の活動に生かしたいと思えたり、自分には思い付かない考え・意見がたくさん出てきて新たな学びになったし、楽しかったです。発表する時間が多くあり、コミュニケーション力を向上できたと思います。今回の貴重な体験を生かしてこれから防災活動をしていき、語り継いでいきたいです。

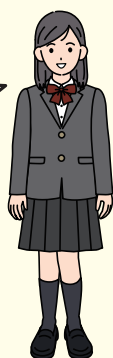


これまで考えてこなかったことや甘く考えてきたことがはっきりして、早く家に帰って何か行動しなければと思ったことは初めてでした。今後今回得たことを私の中で留めておくのではなく、少しでも多くのひとに発信して防災活動に励んでいきたいと思いました。

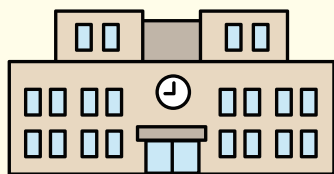
僕も地震を経験したので、それを未来に伝えていくのが必要だと感じていました。その思いが今回の合宿を通して、より強く芽生えるようになり、自分の中で意味のあるものになって今度はそれを他の人に伝えていきたいです。



この合宿でたくさんの講演を聞き、知らないことの方が多くて驚きました。たくさんの知識を身につけることができ、各学校の、個人の、防災や避難訓練への考えが分かりました。防災について学ぶ時間以外でも初めて会う子に話しかけたり話しかけられたりして仲良くなって友達が増えました。自分はまだあまり初めて会う人に話しかけるのは得意ではないけどこの機会があったことで少しそのような点でも成長できたかなと思います。



あまり防災に興味はなかったけど、今回の合宿で興味を持ったし、いろんな学校の防災対策を知ることができたのでよかったです。大震災が起こってしまっても対策ができていれば、少しでも小さく出来るかなと思いました。



人の輪も広がり、それだけでも参加した価値があったと思う。自分の学校だけでは得られないような、その土地ならではの視点を共有してもらえたのが良かった。

教員からの感想

生徒たちが全国から集ってきた参加者と繋がり、防災に関する情報交換はもとより、幅広いネットワークを構築できたのではないかと考える。



わずか3日間でありましたが、1年生が手を挙げて質問したり、他校の生徒と交流したりする姿を見て、成長を感じることができました。他校の先生方ともお話しする機会があり、勉強になりました。

中高生と一緒に活動することはほとんどないので、特に中学生は勉強になったと思います。また、教師のつくったものに生徒が意見することがよかったです。いろいろな立場を知って活動を行うことが大切であると改めて感じました。



その後の取組みの紹介

桜美林高等学校

2月初めのお昼の時間にスライドを用いて全校生徒に対して校内放送を行いました。舞子高校で行われた雁部那由多さんの講演、青少年交流の家での諏訪先生の講演、アクティブプランの作成の三つの観点を軸にして、特に印象に残った雁部さんの「辛い経験を話すことは誰かの学びになる」ということ、諏訪先生の「生きる家」に住むことの重要性についてのお話のことを発表しました。具体的な変化はまだ起こせていませんが、現行の避難訓練は十分なものとは言えません。(年に1度、晴れていたら行うのみ)しかし、ほかの学校では、半日または一日かけて避難訓練を行う防災の日というのを実施しているところもあると知りました。本校の防災訓練も意味のあるものになるよう、時間がかかったとしても根気強く学校側にアプローチして変えていきたいと思えます。



涌谷高等学校

実施した防災アクションは、「合宿で学んだことを他者に伝えること」です。参加した生徒は、合宿中、自主的にワークショップや講義ごとに振り返りをしていました。それを踏まえて合宿全体で学んだことをまとめ、それを家族や友人に伝えました。また、その振り返りをもとに生徒・防災主任で「学校防災だより」を作成し、全校生徒への配布や学校ホームページへの掲載を通して、合宿での学びを伝達しました。時間割等の都合で発表の場は現在設けられていませんが、可能な範囲で伝えることができたいと思います。加えて、生徒のアクションプランの中に、高知県立大方高校さんで実施している「防災デー」を本校でもやりたいという声がありますが、まだ動けてはいませんが、次年度の涌谷町総合防災訓練に合わせた形で実施したいと考えています。



成果と課題

生徒や引率教員のアンケート結果から、「防災意識と社会参画意識のさらなる向上を目指す」という事業の目的は概ね達成できたと感じられる。防災に関する知識・技能よりも、参加者同士の交流に重きを置いてプログラムを設定したことが、このような結果に繋がったと考える。しかし、一部プログラムにおいて意見交換の時間が不足しているなど、時間に余裕のないという意見があった。また、「淡路に来たのだから、野島断層を見学したかった」など、その土地でしか体験できないプログラムを求める意見もあった。プログラム数を精査し、一つひとつプログラムの充実を図ることや、開催地ならではの体験を提供することが今後の課題だと考えられる。

これまでの「全国中学生・高校生防災会議」



平成30年度 全国中学生・高校生防災会議 ～全国防災ジュニアリーダー育成合宿～

日時 平成31年1月11日(金)～13日(日)
主管 兵庫県立舞子高等学校、
国立淡路青少年交流の家
参加校 31校
参加者 94名(中学生16名/高校生55名/教員23名)



令和2年度 全国中学生・高校生防災会議 ～全国防災ジュニアリーダー育成合宿～

日時 令和2年12月26日(土)
主管 国立青少年教育振興機構
参加校 31校
参加者 166名(中学生:33名、高校生80名、教員53名)



令和元年度 全国中学生・高校生防災会議 ～全国防災ジュニアリーダー育成合宿～ (東北会場企画)

日時 令和元年8月17日(土)～19日(月)
主管 宮城県多賀高等学校、
国立花山青少年自然の家
参加校 17校
参加者 91名(中学生5名/高校生59名/教員27名)



(熊本会場企画)

日時 令和元年11月15日(金)～17日(日)
主管 熊本県立熊本第二高等学校、
国立阿蘇青少年交流の家
参加校 20校
参加者 74名(中学生9名/高校生41名/教員25名)

令和3年度 全国中学生・高校生防災会議 ～全国防災ジュニアリーダー育成合宿～

日時 令和3年12月18日(土)・12月27日(日)
主管 国立青少年教育振興機構
参加校 20校
参加者 102名(中学生:6名、高校生75名、教員21名)



◀記録集ダウンロード 国立青少年教育振興機構ホームページ

<https://www.niye.go.jp/services/plan/bousai/archive.html>

(発行) 国立青少年教育振興機構 教育事業部 事業課

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1 電話番号 03-6407-7201 (代表)